

いよいよ「古典学の再構築」も4年半にわたる研究期間を終えることになり、最後のニュースレターをお届けする。本来、シンポジウム特集号と最終号と2号でお届けする予定であったが、例年のこととして当てにしていた追加配分がなくなってしまったため、最終号として予定していた内容の多くを割愛せざるを得なくなったことは残念である。

そうした内容のうちのできる限りのものは Web 上にて公開していきたいと考えている。せっかく「古典学の再構築」によって形成されたネットワークを維持していくために classics.jp をいっそう発展させていくことが今後の課題となろう。

「古典学の再構築」の広報に関してお力添えをいただいた参加メンバー、外部の協力者、また過去2年間にわたって広報事務を担当していただいた若き人類学研究者の高崎恵さんに心からの感謝の念を捧げたい。

高島 淳

1996年秋に「古典学の再構築」の準備を開始してから、はや6年半が過ぎ、実質的な研究を終えようとしている。豊かな研究成果は8冊の冊子に纏めることができた。この間には実に多数の方々のお世話になった。とりわけ評価委員の4先生には常に励ましと助言をいただいた。これなしには孤立した古典学の諸領域を結びつけた本特定領域は、最後まで遂行することが極めて困難であったと思われる。調整班代表（池田知久、関根清三、徳永宗雄、内山勝利、中務哲郎、木田章義、中川久定、月村辰雄の各氏）は、本研究の推進役として努力を惜しまれず、それぞれの班の活発な共同研究を実現していただいた。また文明ごとに設けた分野責任者（上記の内山、関根、木田各氏のほか、興膳宏、御牧克己、鎌田繁、濱田正美、杉山正明の各氏）は、シンポジウムなどにおいて各分野の取り纏めに当られた。あるいはまた内山勝利、平田昌司両氏は実行委員長としてそれぞれシンポジウムを開催下さった。ホームページ設置などの広報は、徳永宗雄、高島淳両氏が担当下さった。ニュースレター刊行や「古典学の現在」の編集などには、木田章義、高島淳、李長波、高崎恵の各氏が献身的に貢献下さった。

研究の全期間を通じて、本特定領域に参加した皆さんから多くの助言と激励をいただいたこと、また異なる領域の研究を知って大変有益だったと言われたことが、何よりも嬉しいことであった。

平成15年度は成果取り纏めの1年となる予定である。5年間の研究成果は平成15年3月に刊行したのであるが、これを古典研究者以外の人々に読んでもらうことができるよう、工夫をこらして手直しをし、商業出版に漕ぎつけたいと願っている。最後の1年に、もうひと踏ん張りのご努力をお願い申し上げる。

ここまで来れたことは、皆さんのご協力のおかげであるとしみじみ思う。本当に有難うございました。

中谷英明

(平成15年3月21日)